

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101825		
法人名	株式会社ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風		
所在地	千葉県千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	令和4年2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	令和4年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人ひとりの「生きる力」が引き出せたいと思っています。1階では、最近お客様の入れ替わりがあり、少し落ち着かない様子も見られますが、その中でも、毎日午前中に1時間程度体操をされ、元気に身体を動かされています。時には午後にも「体操でもしようか」とお声がかかり…。皆様、お元気で嬉しい限り。「何かやることないですか?」と毎日食事の準備を手伝って下さったり、自主的にモップを持ってこられ、廊下やフロアを何往復も磨いて下さったり。2階のお客様も食事の準備や洗濯物などよくお手伝いしてくださり、とても助かっています。書道の先生をされていた方がいらっしゃることもあり、毎月の書道の時間に実力を発揮されています。職員はお客様に日々、励まされ、笑顔を取り、時には感情をぶっつけられて、また、冗談を言い合って大笑いしたり、相談にのったり、のっていただいたり、お客様と職員、助け合って生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

良い点として①利用者が毎日元気に楽しく暮らせるように健康管理をし、自分らしい生活をするためにも出来る事はやってもらい、出来ない事は職員が手伝い、職員と利用者がお互いに助け合って、自立を支援している。毎日充実した日々を送るためにも、出来る様に準備をして家事の役割を持ってもらい、利用者の持てる力を発揮してもらるようにしている。②看取りは家族と協力をして皆で良い最期を迎えられるように手助けをしている。今年度は3件の看取りが行われ、医師との連携体制と職員の協体制が出来ている。③外出が出来ない中で、毎月の食事レクと一緒に餃子づくりをし、楽しく美味しいを大事にして取り組み、食事作り部門に参加してグランプリを獲得している。④管理者は現場に入って職員と良く話し合い、レク活動や個別ケア等やりたい事はやってもらい遣り甲斐を持てるようにしている。また、センター長は次の人材を育てるために新人職員や管理者の育成に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「助け合い!!支え合う!!」センター内にて入居者・職員、皆お互いに助け合い、支え合っており、地域でも助け合っていたらと思いますが、まだまだ地域に貢献できてはならず、助けられるばかりです。	職員が話し合って決めたホーム独自の理念は、職員同士声掛けをし、職員と利用者がお互いに助け合い・支え合って日常生活の支援をしている。また、利用者が自分らしい生活をするためにも、出来る事はやってもらい、出来ない事も出来る所までは自分でやり、職員はやってもらうための準備をして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、普段なら運動会や防災訓練に参加していますが、コロナ禍でここ2年はかなわず…。雨が降りだすと近所の方が電話を下さったり、袖子や筍などをお裾分けしてくださったりします。散歩や駐車場で外気浴をしていると近所の方が話かけて下さいます。	利用者の散歩時や駐車場で外気浴時に近所の人から声かけがあり、袖子や筍等の差し入れもあり交流が出来る。コロナ禍で地域の運動会や防災訓練等の行事は中止となっている。研修生のホーム見学は行われなかったが、中学生との交流やボランティアの受け入れは中止している。	コロナ禍で地域との交流は難しい状況が続いていますが、地域への情報発信と地域包括ケアへの取り組みを考えているので期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教育機関の実習生の受け入れを行っています。地域への発信力はまだまだ…。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は書面での開催となっているが、センターでの運営状況の報告、行事報告、研修、事故報告等書面にて報告し、アンケートとしてハガキを同封、意見を頂戴しています。	運営推進会議は書面開催としてあんしんケアセンターや家族に資料を送付している。同封のハガキにワクチン接種・心配な事・意見や要望等を意見を記入してもらいサービスの向上に活かしている。ホームからは利用者状況・研修・事故報告・行事等の写真・消防訓練・コロナ対策等の報告が行われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてあんしんケアセンターの方からご意見を頂き、支援に活かしています。介護保険課には、事故報告、その他分からないことに関して相談・指示等仰いでいます。コロナ禍で中止になってしまっていますが、介護相談員もいらっしやっています。	区の担当者とは事故報告・生保者の手続き・分からの事等を相談し、メールでの感染症予防・防災対策、研修案内に協力している。エリア内の協議会はZOOM開催され、虐待の勉強会やコロナ対策等情報交換をして連携している。介護相談員も1回訪問があり、利用者面談が行われ内容のフィードバックが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化、虐待防止検討委員会を設置し、毎月の全体会議にて、各ユニットの状況を話し合っています。また、定期的に研修を行っています。	毎月の全体会議の後に身体拘束適正化委員会を開催し「虐待に当たる行為・疑いのある場面は・不適切なケアは・事例検討等」が行われている。また、社内研修では身体拘束の基礎知識や虐待の芽チェックを実施して意識を高めている。言葉の抑制スピーチロックは待ってもら理由を説明して納得してもらう事を大事にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化、虐待防止検討委員会を設置し、毎月の全体会議にて、各ユニットの状況を話し合っています。不適切な声かけや支援に対しては、現場で職員同士指摘・注意しあえるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH協議会やセンター内研修において学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、必ず重要事項説明書、契約書の読み合わせを行い、時間をかけて説明しています。不安な点や疑問点を伺い、理解して頂けるよう心がけている。また、重要事項内容に変更があった際は、その都度説明させて頂き、書面にて同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは、面会時やプラン更新時など定期的に意見や要望を伺っています。また、書面開催の運営推進会議にてアンケートハガキを同封するのですが、そこに意見や要望を書く欄を設けています。他にも行政や本社の相談窓口を紹介しています	家族の面会時・電話やメールでの連絡時・毎月の状況報告書送付時・運営推進会議のアンケートハガキ等により利用者の近況報告と支援の依頼や意見・要望を聞いている。また、利用者とは良く話をしてその発言や状態の変化を介護日誌に記録し申し送りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティング、日常の会話等で職員の要望や意見を聞き取っています。その意見や提案を皆で話し合い、反映させるよう努めています。	職員はケアカンファレンスで意見を述べ、提案は日常的に行ない、利用者の状態変化は申し送りをし会議の中で確認をしている。管理者は現場に入って職員と良く話し合い、レク活動や個別ケア等やりたい事はやってもらい遣り甲斐を持てるようにしている。センター長は考課時の面談や普段より話し合い良い関係性が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員、正規社員は自己実績の評価を考課表に記入、それを基に面談を行っています。パート職員に関しては契約更新時に面談を行っており、昇進、昇給への機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修は、職員全員に受講を推進しています。社内研修では、年間計画に沿って、本社研修、センター内研修を実施しています。本社研修にも参加を促し参加して頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内の首都圏東エリアとして、エリア内にて協議会を開催、情報共有や勉強会など行っています。現在、コロナ禍のためなかなか実施できずにいますが、以前は施設見学なども行っていました。また、「介護相談受け入れ事業所意見交換会」などにも参加していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご本人、ご家族と面談し、要望や課題を聞き取り、一緒に検討し、関係・環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の困っていることを伺い、思いを調整しながら、よりよい方向を目指せるよう話し合いを行っています。ご本人らしい生活を提供できるように協力体制や関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズには優先順位をつけ、どうすればご本人の意向に沿うのか話し合っています。訪問マッサージやデイサービスの利用も検討し、必要に応じて利用しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、掃除や洗濯など出来ることを行っています。元料理人の方もいらっしゃいますし、家事に関してもさすが年季が違います。頼りにさせていただいており、色々とお願ひしています。いつも助かっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、来所時やお電話、毎月のお手紙でご本人の近況を報告したり、ご本人の希望を伝えたりしながら、職員だけで難しいことや、力が及ばない部分をご家族の力を借りながら、支援に協力頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やご友人、ご近所の方がいらっしゃった時には、居室や相談室へご案内し、ゆっくり一緒に過ごせるよう配慮しています。最近では、コロナ禍のため、玄関や玄関前の駐車場で少しの時間でも会っていただいたり、テレビ電話も活用しています。	利用者の近所の人が様子を見に来訪し、友人も家族の了解を得て面会に来ている。家族の面会もコロナ禍にに応じて対応を変え、面会室や居室・玄関先で短時間・タブレットでのライン面談等の工夫をして機会づくりをしている。利用者の希望により電話をかけて話し、手紙を出して関係を支援している。昭和の時代のニュース等のDVDを借りて皆で見て実感し話が盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士、自発的に交流できるよう、見守り、支援しています。トラブルになりそうな時など必要に応じて間に入ったり、会話にさりげなく関わりを持ち、配慮しています。また、意思疎通が難しい方でも、一緒に空間で楽しい雰囲気の中過ごしていただけるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が、お野菜を持ってきてくださったたり、利用していた方ではないご家族に関しての相談の電話があったこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からよく話をし、また日頃の言動や行動から把握できるように努め、ミーティングや担当者会議でご本人やご家族の意向や要望に沿うようにしています。意思疎通の困難な方には、普段の様子から汲み取るよう努め、また、生活歴やご家族から情報収集を行い、検討しています。	入所前の面談により要望や課題を把握し、入所後には日常の言動、良く話をして本人が云っている事ややりたい事等の発言から意向の把握に努めている。意思疎通の難しい人は家族から話を聞き、想像力を働かせて日々の生活が楽しめる心配りをしている。介護日誌や申し送りをし、変化時には担当者会議で話し合いケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の担当ケアマネージャーやご家族へ聞き取り、生活歴・環境等の情報収集を行うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当を中心に、ご本人の求めていることや、出来ること、やりたいことを汲み取れるよう努めています。現状の把握ができるよう、日常の様子を記録に残すようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思い、要望など伺い、職員と話し合っています。必要に応じて、主治医・看護師等に意見を伺い、介護計画に繋げています。	職員と管理者は普段から話をしてその場でケアプランを変更して実施する事もある。利用者・家族の要望を把握し、ユニット会議のケアカンファレンスで話し合っケアプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年毎に担当者会議を開催して見直しを行っている。必要に応じて医師・看護師の意見を事前に伺って反映している。	ケアプランと介護記録の連動を図るために、毎月モニタリングを行う機能を活用してサービス内容に沿った記述する事に行っている期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やちょっとした状態の変化を記録に記しています。実際に話した内容なども記録するよう心がけています。ヒヤリハットも活用して、職員間の情報の共有や気づきに努めています。それらを用いて介護計画の作成や支援に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に応じて、訪問マッサージや訪問看護、福祉用具のレンタル・購入、訪問理美容等のサービスを利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヤクルト販売を月に2回お願いしています。ご自分で好きな飲み物を選んで頂いています。移動スーパーの立ち寄りが始まるころでしたが、コロナで流れてしまいました。その他、中断しているボランティアの受け入れなどもあわせて、落ち着いたらまたお願いしてみようと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向に沿ってかかりつけ医を決めています。入居前のかかりつけ医の継続や、ご希望に応じて訪問診療をお使い頂けるよう支援しています。急変時は訪問看護ステーションに連絡したり、直接医師に連絡を取り、指示を仰ぐことができます。	入居前のかかりつけ医は家族対応で行われ情報を確認している。利用者・家族の意向により2か所から月2回の訪問診療が行われ、健康記録を提示し診療内容は介護記録で共有し、診療後には医師より診療内容の報告が送られてくる。週1回の訪問看護による健康管理が行われ、急変時の対応マニュアルを掲示し、看護ステーションに連絡をして看護師か医師が来て対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携で訪問看護が来所した時、健康状態・最近の様子を伝えています。訪問看護師は必要に応じて、主治医へ連絡・連携をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時はもちろんのこと、定期的に病院関係者と情報交換を行っています。可能であれば、入院中の面会に伺ったり、Dr.との面談に同席させていただいたりしながら早期退院に向けた相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応、看取りに関する指針」に基づき説明を行っています。ターミナルケアを希望される時には、ご家族・主治医・看護師・センターで話し合いの場を設けて連絡体制を整えています。	入居時に「重度化時の対応・看取りの指針」により「ホームでの対応は何処まで・看取りの希望は・医療行為は出来ない・救急搬送と延命措置等」の説明をし同意を得ている。看取り希望は定期的に、また変化に応じて確認し、家族・医師・看護師・ホームで話し合っている。家族には後悔しないためにも関わってもらい、最後には立ち会って看取りが行われている。今年度は3件の看取りが行われ、医師との連携体制と職員の協力体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に急変時のマニュアルや病院の連絡先を掲示し、ミーティングなどでも急変時、事故発生時の研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、改善点を検討、職員間で共有しています。自治会との連絡体制、近隣職員の協力体制を整えています。	防災訓練は計画書とタイムスケジュールに沿って夜間・日中想定火災訓練と水害による避難訓練が行われている。また、消防設備機器や消火器の点検も行われている。実施後には良かった点や問題・反省点を確認して報告書を作成している。職員の協力体制と備蓄も5日分あり災害への備えが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はお客様に対する声かけに対して、意識して気をつけるよう努めています。研修を通して意識喚起しています。また、職員間でもお互いに注意し合おうと話しています。	利用者のプライドを傷つけないように、さりげなく介入し気を遣わせない様にし、声掛けもお伺いを立てる聞き方の心配りしている。飲み物や洋服等自分で選べるようにし、食事でも食べたくない時はずらし、業務を優先しないで生活のリズムを大切にしている。入室時はノックと声かけをし、入浴・トイレ時には戸を開けてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを決める場面では、選択肢を提示して選んでもらうようにしたり、その方の希望がきけるような声かけに気をつけたりと、ご自分で選んで頂けるような会話の工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先したり、職員のペースで生活運営をすすめたりすることのないよう気をつけています。一人ひとりの元々の生活リズム、ペースを把握し大切にしよう心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は、その日に着る服を選んだり、お化粧をしたりしているため、継続していけるよう支援しています。また、介助が必要な方は、髭剃り・洗顔・整髪の支援を行い、行事や外出の時は、よそ行きの洋服を選んだり、口紅をさしたりして支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の力にあわせて、一緒に調理をしたり、片づけをしたり手伝っていただいています。また、お好み焼きパーティや餃子作りなどの食レクを催し、全員で野菜を切るなどの準備・調理を楽しんで頂いています。誕生日には、希望を伺って出来る限り取り入れ提供したり、季節・行事にあった料理を提供したりしています。	利用者は食事の準備・下膳・食器洗い・拭き等出来る事を行って持てる力を発揮している。毎月の食事レクは、餃子づくり・お好み焼き等を一緒に作り、誕生日には食べたい物の希望を叶えている。季節には旬の物や季節の行事毎に特別食を提供している。外出が出来ない中で、食事が一番の楽しみとして楽しく美味しくを大事にし、グループホーム全体の食事作り部門に参加してグランプリを獲得している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の状態に応じて、常食・刻み食・ミキサー食等形態を変え、提供しています。むせ込みのある方にはトロミを使用しています。一度に量が食べられなかったら、間食を増やしたり、水分量が少なかったら、こまめに水分を提供したり、場所を変えたりと工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。個別に歯ブラシ・義歯洗浄剤・口腔ティッシュ・スポンジ等で口腔内を清潔にしています。また、定期的に訪問歯科にて診て頂いている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握、自立している方以外は、一人ひとりの習慣に合わせた声かけや誘導をし、トイレでの排泄を心がけています。	排泄チェック表から排泄パターンを把握して定時に、また早めに声掛けをしている。自立した人は自分で、オムツの人も誘導してトイレでの排泄を大事にしている。拒否の人は時間を置き、何回も行きたい人は気分を変え、失敗時には気を遣わせない心配りをしている。水分摂取や運動をして自然排便を促し、下剤の使用は医師に相談をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中の体操、牛乳の提供、朝食時のヨーグルトの提供、水分摂取の促し等行い、自然排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の希望、体調に合わせて行っています。基本的には午前中の入浴ですが、体調やその方の意向によって、午後や夕方に行うこともあります。肌の弱いには専用の石けんや保湿剤を使用しています。	朝にバイタルチェックをし、体調や希望に合わせて週2～3回の入浴を支援している。車いすの人は2人介助をし、拒否のある時は足浴やシャワー浴にし、希望により寝る前に入浴する事もある。全身のチェックをして写真を撮って記録し、保湿剤を塗り、季節にはゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。1:1の入浴の時間はゆっくりと湯船に浸かって昔話が出ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに応じて、起床・就寝時間に配慮しています。日中でも休みたい方やお疲れのご様子だったら、休息をとっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬から服薬に至るまで、「名前・日付・何錠の薬」かを夜勤者・早番・服薬介助者が確認を徹底し、誤薬事故防止に努めています。薬内容の変更に関しては、職員全員周知し、その後の体調変化等の観察をし、主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の嗜好や、仕事や育児等で頑張っていた頃のお話を伺い、役割を持ちたり、日々を楽しんでいただけるよう支援しています。元料理人の方には、食レクの際に味付けをお任せしたり、指揮をとっていただいたり、主治医と相談しながら晩酌を楽しんでいただいたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣を散歩したり、前庭で外気浴をしたり、コロナ禍でなかなか行けなくなりましたが、スーパーやコンビニ、ケーキ屋さんへ買い物へ行ったりしています。また、季節の花見(桜やあじさい)等出かけています。	利用者は天気の良い日には近隣を散歩し、前庭で外気浴をし、コロナが少し納まった時にはコンビニやケーキ店で買い物が行われている。ユニット毎にグループ分けをして花見に行き、大きな車を借りてドイツ村に見学に行つて楽しみ喜びの声が出ている。コロナ終息後には外出したいねと話をし、家族には写真を送付して知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で所持したい方は、お財布を持ってご自分で管理されています。また、その他の方でも、お買い物へ行かれた際、お金をお渡しして、ご自分の分は自分で払っていただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、センターの電話を使用いただいています。また、手紙をだしたいとはがきや切手の購入を希望される方には購入し、手紙やはがきを代わりに出しに行ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、照明の明るさ、エアコンや加湿器による室温、温度の調整、テレビや音楽等の音量に気を付けて快適に暮らせるよう心がけています。季節に応じた花を飾るようにしています。	リビングには日光が入って明るく、エアコンや加湿器で温度湿度調整をし、1時間毎に換気をし、毎日掃除をして清潔な共有空間となっている。季節には七夕・クリスマスの飾り付けをして掲示し、利用者は好きな場所でゆっくりと寛いでいる。午前中はテレビ体操をし、皆が集まって計算ドリルや歌謡曲を歌い、職員は話題を提供して楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには椅子やソファが置いてあり、お好きな場所で、テレビを鑑賞したり、くつろいだり、談笑したりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるお部屋にして頂くために、ご本人の使い慣れた家具や衣類を持参して頂いています。手書きの絵や手芸の作品、家族の写真を飾って居心地のいい空間をつくるよう心がけています。	居室はベット・クローゼット・エアコンが完備され、自宅で使っていたタンス・椅子・テレビを持ち込み、書道や制作物、家族の写真等を飾って心地よい居室となっている。温度管理や掃除は出る人は一緒に行い、転倒の危険のある人にはセンサーを入れ、床に物を置かないようにして導線が確保されている。夜間巡回ではおむつやパット交換をし、安全の確認が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や浴室、トイレの場所には、わかりやすいように表札や室名が書いてあります。フロア、廊下、トイレ内、浴室等に手すりが設置しており、バリアフリー、安全な動線の確保に努めています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域のつきあい コロナ禍もあり、地域との交流が難しい状況が続いている。地域への情報発信が出来ていない。	地域への情報発信と地域包括ケアの取り組みを行う	自治会長や包括などに活動内容をまとめたお便りを配布。地域へ発信し、相談等あれば随時対応していく	6 ヶ月
2	26	ケアプランと介護記録の連動	ケアプランのサービス内容に沿った記述を行う	介護記録のソフトに毎日モニタリングができる機能があるため、それを活用する	2 ヶ月
3	49	外出の支援 コロナ禍の為に外出の機会が減ってしまった。お客様とコロナが収束したらお出かけしたいね、と話をしている	ユニット毎にグループ分けをしての花見やドライブなどお客様から好評。コロナ禍での外出の工夫をしてお客様に楽しみと喜びを持ってもらう	お客様の希望を伺い、計画を立て、近隣センターから車を借りるなどして、今後も継続して定期的に外出をする	1 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。